

1 実施方法の概要

	令和6年度	(参考)令和5年度
■実施期間	令和6年7月～9月 (3か月間)	令和5年 10 月 (1か月間)
■回収場所	西地区リサイクルセンター	厚別地区リサイクルセンター
■対象地区・世帯数	二十四軒地区・八軒東地区の 5,769 世帯	厚別東地区の 1,915 世帯

2 総回収量及び回収量の推移

■総回収量 3,570kg			
【参考】厚別区モデル事業の総回収量 1,012kg			
■回収量の推移			
3か月目中旬から前回同様、駆け込みにより増加			
回収日	回収量	日数	1日当たり回収量
7月 5日	100 kg	3日	33.3 kg/日
7月 9日	130 kg	3日	平均 43.3 kg/日
7月 17日	270 kg	7日	38.3 38.6 kg/日
7月 23日	190 kg	5日	38.0 kg/日
7月 30日	230 kg	6日	38.3 kg/日
8月 6日	240 kg	6日	40.0 kg/日
8月 14日	130 kg	7日	平均 18.6 kg/日
8月 20日	150 kg	5日	31.3 30.0 kg/日
8月 27日	230 kg	6日	38.3 kg/日
9月 3日	210 kg	6日	35.0 kg/日
9月 10日	250 kg	6日	平均 41.7 kg/日
9月 18日	350 kg	7日	63.3 50.0 kg/日
9月 25日	350 kg	6日	58.3 kg/日
10月 1日	740 kg	5日	148.0 kg/日
合計	3,570 kg	78日	—
【参考】厚別区モデル事業の回収量の推移			
回収日	回収量	日数	1日当たり回収量
10月 3日	55 kg	1日	55.0 kg/日
10月 9日	112 kg	6日	18.7 kg/日
10月 17日	143 kg	5日	28.6 kg/日
10月 24日	72 kg	6日	12.0 kg/日
10月 27日	170 kg	3日	56.6 kg/日
11月 1日	460 kg	5日	92.0 kg/日
合計	1,012 kg	26日	—

4 リサイクル

①リサイクルの結果
1,892kg(総回収量の 53%)がペレットにリサイクルされ、主にパレットやカバンの中敷き等に再生予定。
②各モデル事業におけるリサイクル事業者の特性の比較
(厚別区) 軟質プラスチックや汚れのある製品のリサイクルが難しいが、金属が含まれても問題なく対応できた。
(西区) 軟質プラスチックや汚れのある製品プラスチックに対応できるが、金属が含まれる製品への対応が難しい。



回収した製品プラスチックから作ったペレット

5 アンケート結果

(1) 回答数 610 人

(2) 集計結果(主なもの)

モデル事業の利用の有無	西区	厚別区
利用した(利用する予定)	54%	69%
利用しなかった(利用しない予定)	46%	29%
今回のモデル事業を利用しなかった理由 (※利用しなかった人への質問)	西区	厚別区
期間中に発生しなかった	19%	49%
燃やせるごみに出す方が楽	41%	26%
拠点が遠い	21%	10%
将来の製品プラスチックの回収方法	西区	厚別区
容器包装プラスチックを同じ袋でごみ ST に出す	46%	44%
拠点到持ち込む	18%	20%
その他(別の日を設定、別袋で出す等)	18%	21%

6 モデル事業により得られた成果・課題等

《回収結果等について》
●排出される品目については、2回のモデル事業を通して、ある程度の傾向を把握することができた。
●西区では、対象世帯が厚別区の3倍にも関わらず、一日当たりの回収量は3倍に満たない。アンケート結果でも、利用した住民の割合が54%と低く、回収量には乖離が生じた。
●いずれのモデル事業でも、捨てず溜まっていた製品プラスチックがまとめて出される傾向があり、各家庭には潜在的な製品プラスチックが一定量あると推測
▶ 回収量については引き続き慎重に見定める必要がある。
《リサイクル事業者について》
●リサイクル事業者それぞれに特性があることが確認できた。
●複数のリサイクル事業者にヒアリングを行ったところ、容器包装プラスチックのリサイクル事業者が製品プラスチックを処理するためには設備更新が必要となるケースがあるなど、製品プラスチックに係るリサイクル業界はまさに過渡期にある状況。
▶ リサイクル事業者には特性があり、過渡期にあることから、事業者の処理能力や特性等を正確に把握する必要がある。